

**各部会における協議内容の報告**

結婚・子育て支援部会	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
ワークライフバランス推進部会	・・・・・・・・・・・・・・・・	3
若い世代部会	・・・・・・・・・・・・・・・・	5

**1. 少子化対策（県民意識調査、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略）について****（1）出会い・結婚支援について**

- ・ マッチングシステムや出会いイベント等によるマッチング件数が増えることで、本当に婚姻数が増えているのか、現状の手法で良いのかチェックを行うことが必要。
- ・ あまり結婚したくないということが、「出会いの機会がない」という言葉に置き換わっているのではないか。マッチングにこだわらず、根底にある当事者の心理的な側面からもアプローチを検討してほしい。

**（2）子育てに対する経済的支援について**

- ・ 全国的に少子化問題が取り上げられているが、最終的には金銭的支援が必要。出産祝い金として10万円支給される自治体もあると聞いたが、高知県においても支援できる部分は支援してほしい。
- ・ 「出産・子育て応援給付金」や保育の無償化も始まり、断片的には良くなっているが、高校卒業まで子どもを育てるにはまだまだお金がかかる。特に、児童手当における所得制限は非常に問題だと思う。

**（3）安心して子育てできる体制づくりについて**

- ・ 高知市で通所型の産後ケアが始まった。自分が苦しくなったときに、子どもを預けてゆっくり寝たいという方がいらっしゃるのでも、他の市町村でもぜひ通所型でゆっくり休める制度を進めていただきたい。
- ・ 子育て応援パスポートアプリの導入について、対象となるのは若い人、子育て中の方になる。応援の店となった協賛事業所からポイントをいただくなど、利用によるインセンティブを与えることが大切。協賛事業所のアピールに活用してもらうような形で、ポイントを引き出せないか検討してほしい。
- ・ 高知県の女性の就業率は高く、1才からの保育所入所率も全国トップクラス。子どもを7時半に保育所に預けて18時半に迎えに来る保護者が、家庭で子どもと一緒にいる時間は実質1時間程度という実情があり、女性の活躍も大事だが、保育士の賃金の保障など保育環境の充実も喫緊の課題。

#### (4) 地域社会全体で支える子育てについて

- ・ 昔は子育てを社会全体でやっていた。高知県には「高知家」という良い言葉があるので、みんなが家族と思って、子どもを育てることを意識できるような状況を作ってほしい。企業も従業員の子育てを自分たちが手助けするんだと思ってほしい。企業にとっては経営が一番だが、県が助けられる部分がないか。もっと子ども、子育てにお金を出すことが必要。社会みんなで子育てを支える、高知県をそういう社会にしていき、安心感を高めていくことが大事。

## 2. 社会人交流事業について

- ・ 一次産業は男性が多い業種で、出会いがないという声を聞く。異業種の方と交流の機会があることは良い。
- ・ 高知市だけでなく、嶺北や幡多などさまざまな地域でイベントが開催されると良い。
- ・ 高知県には医療・介護・保育といった業種に就く、いわゆるエッセンシャルワーカーの女性が多いが、この3年間はコロナ禍で出会いどころではないという状況にあった。こういった女性が巡り会えるような施策を考えてほしい。
- ・ 出会いイベントの開催においては、高知市と33市町村、また、中央4市と他30市町村と分けてアプローチを変えていく必要がある。

## 3. 女性活躍推進計画アクションプランについて

- ・ 県の事業を受託し、女性活躍推進に関する動画を制作中。例年開催しているセミナーと比べて視聴の応募が多く、例年とはまた違った手応えがあるのではないかと期待している。
- ・ 個人の性格も影響する部分ではあるが、男性が育児を頑張りすぎて、母親が自信を失ったり、男性自身が産後うつになるケースもある。男性の家事育スキルアップ支援の中で、夫婦で役割分担について話し合ったり、夫婦で助け合うことの重要性についても伝えてほしい。
- ・ 固定的な性別役割分担意識が根強く、女性の活躍を阻害する要因の一つとなっている。小中学校では性差による活躍の差は見られず、女性が主体的に活躍していることも多々ある。社会に出たときに、その子らしい力を何らかの要因で阻害され、活躍の機会が少なくなるのは悲しい事実。今の子どもたちには、男女関係なく、家事や育児を当事者意識で一緒にやるという感覚を育ててあげたいと思って取り組んでいる。

**1. 少子化対策（県民意識調査、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略）について****（1）支援サービスの認知度向上について**

- ・ 支援サービス等の認知度に関して、関心のない人に関心を向けてもらうのは難しいが、高知家の家族として知っておいていただく必要があるので、より、パワーアップした広報が必要。

**（2）子育てに対する経済的支援について**

- ・ 0～2歳の保育料無償化をしてほしい。共働きでも大変だと聞くので、半額でもいいので補填してほしいと思う。そうした支援があれば「もう1人」となるかもしれないので、子どもを産みやすい環境を作ることが大事。

**（3）結婚や子育てに対するイメージについて**

- ・ 結婚に対する考え方や子育てに対する考え方は、良いイメージが持たれていないのではないかなと思う。暗いところが目に付くが、夢のある部分が前にでてくことで、意識全体が変わるような取り組みが大事。
- ・ 隣近所を含め、何らかのつながりで「高知って良いよね」というイメージが大事。安心感の割合が低下しているが、景気や世の中の暗いニュースに足を引っ張られている部分がある。逆風が吹き荒れている中だがイメージは大事。

**（4）働き方改革・ワークライフバランスの推進について**

- ・ ワークライフバランス推進企業認証制度の複数部門認証を進めることは良い。複数部門認証を取るメリットを見せるため、例えば学生向けの就職情報誌等への掲載を検討してどうか。
- ・ 在宅勤務が進めば育児と仕事の両立が進む。在宅勤務はコロナで浸透したが、コロナに限られた部分もあるので、行政でリモートワークを進めていただけたらと思う。

## 2. こうち子育て応援の店（高知家子育て応援パスポート）について

- ・ 育休中の休業補償についてどれだけ変動するか、簡単にシミュレーションでできるようなシステムをアプリに載せてはどうか。8割補填されると聞いてもイメージがしづらい。会社に聞かなくても自分で試算できると良い。
- ・ ベビーカーとかチャイルドシートなど、その時期だけに使用するもので高額なものもあるので、アプリの中で譲り合える仕組みを作って、子育ての負担が減ると良い。
- ・ 本当に欲しい情報は二重三重になっても良いので、発信されるようにできると良い。また、女性従業員などのニーズを汲み取れるような機能を付加できれば良いと思う。
- ・ LINE と違いアプリは開かなければ情報を確認できないので、どのように新着情報を発信していくか検討してほしい。

## 3. 女性活躍推進計画アクションプランについて

- ・ やはり経営者やトップの考え方が大事であり、そこをターゲットにした取り組みを行うと良い。特に、高知県ワークライフバランス認証企業のトップにはセミナー等に参加いただけるようにした方が良い。
- ・ 意思決定のプロセスに女性が関わっていない面があるので、女性を対象に、データを見せて「こういう考え方をする」といったような内容のセミナーがあると良い。
- ・ 共働きだと家事育児の負担が偏るのが現実。時短で帰らなければいけなかったり、残業ができない中で正社員として働ける、堂々と年休を取って休めるといったことが社会的に受け入れられるようになってほしい。
- ・ 未来の高知県民を育てていると、女性が誇りを持てるようなキャッチコピーやキャンペーンの展開をしてほしい。
- ・ 意識改革の推進の中で、「男性向け」を意識しすぎると取りこぼれる部分があるといけないので、女性の視点も入れながら企画をしていただきたい。
- ・ トップセミナーでは、「各分野で活躍している女性がこんなに素敵で良かったね」ということをPRすると良い。セミナーで話を聞いても「うちではできない」ということにならず、「うちにも実際に活躍している女性がいる」と思えるようになれば良い。
- ・ アクションプランの内容をHPに掲載して、進捗状況を常時確認できるようにすれば参画意識が高まるのではないかな。

## 【若い世代部会報告】

### 1. 少子化対策（県民意識調査、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略）について

#### （1）安心して子育てできる体制づくりについて

- ・ 産後ケア事業の利用拡大について、市町村によって利用できるメニューにばらつきがある。箱物を作るのはハードルが高いので、いくつかの市町村がまとまって使えるような方向性が出てくるといい。
- ・ 乳幼児期の子育て支援はかなり充実してきているが、就学後は子どもの成長につれて、子育て支援体制が貧弱になっていく。既存の支援をもっと使いやすくしていくことが必要。
- ・ 乳幼児期を支えて子育てを前向きにというのも重要だが、第3子と考えると、進学や就職を考えると無理だと思う方が多い。国に対して言うべきことかもしれないが、経済面の安心感を高めないと難しい。
- ・ 女性は、仕事だけの活躍でなく育児で活躍することも選択し、尊重され、応援できる社会を目指すことが方向性として良いと思う。

#### （2）住民参加型の子育て支援について

- ・ 子育てピアサポーター制度はすごく良い。次世代の地域のお世話係を育てることにもなる。ピアサポーターという言葉よりも、もっと格付けを上げ、やることに対し評価を上げることができないかと思う。
- ・ 子育て中の方には、自分から相談できず孤立している人がいる。既存の町内会や地域の活動に光を当てるなど、人とのつながりの場や出会いの機会を創出することが施策の中に入っていると良い。

### 2. 令和5年度の取り組みの内容

#### <取組内容（案）>

##### ■ 座談会の開催

ターゲット：子育て中の方、子育て前の方

ねらい：子育て中の方や子育て前の方の意見を伺い、施策に反映する。

こども計画策定に向けての意見を伺う場とする。

##### ■ 異業種交流会（出会いイベント）の開催

ターゲット：結婚する前の若い世代

ねらい：若い世代の結婚へのハードルを下げる、内向的な人の背中を押す

実施方法：運動会 など

## (1) 異業種交流会（出会いイベント）について

- ・ 今回のイベントのアンケート等があれば、来年度の取組にヒントが得られると思う。実際の参加者の生の声が次に反映されたら面白い。
- ・ 異業種交流会は出会いのきっかけづくりで、マッチングではなく、連絡先を交換させるというのを目的にしても良いと思う。
- ・ 座談会だけで何か効果を作り出すのは難しいと思われるので、異業種交流会に誘導することで何らかの効果につなげることができないか。
- ・ 今回の異業種交流会では、人と出会うことで影響を受けて、自分も成長していくという形での自己研鑽やキャリアアップが求められていると思った。

## (2) 座談会について

- ・ 座談会の後に異業種交流会につなげる方法もある。会として、当事者の生の声も聞いて、同時に子育て中の方も異業種交流会に参加して、その方たちのコミュニティにつなげることができれば一番だと思う。
- ・ 子育ての座談会は、発信としてはネガティブなものもあるので、県内企業で働く未婚男女の集まりに特化するという形も考えられる。
- ・ 子育てサークルでは、実際にサービスはあるがSOSの出し方が分からないという方がいる。例えば家事支援は頼みたいが他人が家に上がるのは嫌、という矛盾している状況の中で、どうサービスを使ってもらうか。本当はこういうのが欲しかったと言えるよう自由に話をしてもらおう座談会（お茶会）も良いと思う。SNSも活用すれば、それぞれが発信してくれるのではないか。
- ・ 未婚男女と子育ては分けた方がやりやすいと思うが、組み合わせるのも面白い。
- ・ 何かにチャレンジしたい人、チャレンジしている人にキャリアアップを含めて本人が頑張っていることを語ってもらえば、同年代の若者の体験談として共感が得られて良いのではないか。
- ・ 座談会では子育て支援のニーズを拾うのが良い。子育て前の既婚の方は、例えば妊娠中の方とかにすればやりやすいかもしれない。
- ・ 同世代の子育て中の方と子育てしていない方が集まると、子育て中の方の話が進み、子育てしていない方は、話について行けず聞くだけになりがちであり、そこを断絶させないような座談会になれば良いと思う。
- ・ 若い世代部会として、どう発信していくかについては、もう少し練り上げたい。